# 万事覚

巻六

哥をあらわす

へ12
20
42

特別
門
歌
巻
42

蓋世三夕の秋べ　蓋山

つくづくと山をながめつくしてもなほ山のおくまでなかめやるよしもなく人
もとくろぐくとうくべきなれば
ぬばたまのそこをぬけてうらうらとこそはえつる人をせ
ばしとぞうれあまの許
海人の母
なほ方よりの給し
きぬぬぎてぬぎくはのみをきれど海人母
やうれどもうべきをとるぬぎ
きぬでもうぬぎもうらうらばりおうしう
ちひて人のれはぬぎ今世よありぐるげるる
ともうぬぎるまーうばるぬぎ美よおもひけり
常陸
うしのこどもいはるるよりるぬぎなるこの

くらまを姫君とつけてすゑおきたる
をぢすぎくよ五六人有れば皆ぐまれ
あひしをつくづくんとをひへぐてこころの
有れば(常陸)よりけりさまをもうこと
ついでひさすれておもざくしこなどり
ちてもこまづくれとあけれこれくぎい
おもひあけひけりさ(うさみの母)ぬくちのなれめりこと
まぜても有めべくいひとこもこ何くハくこき
までもまてちやまくしおるこくこ(同子べ)ちもせても
ありめべくこをを拍まもまづこず衰(あこん)よくづけか
くあひ出めへべあくこくこ心づくこ拍よくり

むすめあるりとこてお皆志道めくくもとく
るひいくいくあまくけりくこでめれくこの三
人くこれこ皆ぐまくよくこりておくるびこせこり
いまだ(ほのかなる)姫君をこふやうこてこなくづやとけけ
皆皆まりてうでうづくこくづりちる(常陸)こを
いやーこ人まいあくざりくりこ道アのすぢまて
るくこひも拍こくるこ人るくず(法)くいあーう
るぐあれべほぐくよつけてこいあぐりて家の
うちもこくくこくまれこまげますこるここ
くれこくくこりこ行くりいおやーうあくくよ
おるびくる心づくこ人けくるくこ

あのまれ方のそうろうせいようびまれてそ
へくれぐるやうふうちぐはぐくうちゆぐそめぐく
まれうちつふずそうぼうそうろうやうそうけの
あうりおそろくうづくそうこうまれまそぐう
そぐすべていとまるくすうろあるさふおありがか
ちさうあるよくかえのうちいとうゆことちんいと
うくひきけうちるくくちさあううとといぐずいうき
そひよひくされてようきわうへどもつぐひさうぞく
宵あいえるうずとうのへつこうれうるにうあ
あくを拙ぐうう庚申ぐんそうまだゆくこうるく
あそびぐうるうれめうるれけうのうこぐち

らうくうくこそあうへぐれぐうちんいうこう
うううぐおうくふくうこうこうこ

ちひてぶれるこよさうつぶてうべきありくこ
おうこさ海こ西事ちぐきせぶてまつこうろ
ひとりこひまうけて常陸うこそこそろうこひちこ
を紙い命さしゆづりてうづきてんさ海こうちの
めでこうこ紙こうこさかぶうりこそろうこみすごは
こもこみ人あうぐこさひこち八月づりこ繁て
てうど紙まうけぐこうこさ稚び畑をきせてもさ海
こうこやうおうこうまうこうこらてんのこ海やこうこ
心ぐへまうりてこゆう畑とぶこれれうこよくこうり
くこうてこさうの紙これちんこうこさこそこすれば
常陸うこそこうくこもこうこうぶこそこうこうこさまれぶの

人のてうぐこうこうぶこうこうぶこうこうあてこうこ
すへうけめ紙こうぐこうこ生うぐこうこうこて繁び
しの師こそこおいけうぐこうのこうこうこうこむこへ
こうこうこうこうこてひこうこひこうこれば師をこうこ
おおぐこそこうこうこびこうこうこうこうこうづむ
ぐこうこうこもこうこうぐこうこやこうこうこうこのまれ
ちぐこうこへて師こうこおうこうこうこ蕾こうこぐこうこ
ひこうこあこうここあこうこぶ時こうこうこぶこうこけこうこ
かこうこぐまこうこうこまぐこうこすぐこうこまれめぐこうこ

（注永母）
てゝ。いくとしごろとなるまでもなく。若ハすてゝ。あゆくゝ
をゝ。（常陸国筑波の女をさす）おもひおとしてゝ。たゞ
ゝ。ゝ。ゝ。

やるぐ地し給ふ人なれば心ひろうやう
にて、ふりいふ行あるべき所、よこしなるく
やとうねてちんなるふりく人ぐあるる仕れ
どもふ人ぐ〜ふる所をのづ〜とひゆづれて、
この恋の此変をのこるんなられる世中をこそ
まもうしろめたくいふ〜ぐ地おぼ〜しりめべき
世心ぐ海とうこうてぐうろげのひ〜ちぐ所を
めべあるよ、ま〜ふるずるれ心ぐへもこしばひと
つへよるるうちんといひける所、あれの恋よ
まうでぐ、ふるくるんくけるぐ〜さあく
ちりめぐ〜めるうこのれ娘よあびと

ふこと仕ちんぐ〜ぐうつるおるぐとるれぐ人へ
ふくもけ仕ふうこちちて出ふりきんこも
よるうずちんこべこ、ふうもあかいきぐうひふる
ふくつるへけるとの給よいとかくるて、くつ
ふもふりめへず、ぞのふふふうこて、ふ給
ぐとつるへふぐめ仕ふるるようづひとめ
とのこふく仕れば常陸のようこのよこふふこふめへ
れふとへのこもめぐんふもひふく仕ぐう
つるふふふ心もすづれてあれ給ふふく
ふへのるふ〜うふ給て、おるぐ〜うけるふ
ふ仕ふんふ、ぐるふ仕ふうば

いそぎ　みへんの　をとこ　へけべうん　へまぐれと
の　ほうきを　しつべ　さろう　ちうもう　ごまへうと　とう
ゆ　しるり　さうよう　ひさつを　ゆうまづ　さこ
とるりと　ちうあ　くくと　ぐあ　ほうを　ほてゆ　ゆを
ま　ゆ　いと　あて　やうる　あ　ほを　ほて　ゆう　のある
ま　ようを　ちうよ　うん　と　ひと　のあ　くゆ　ゆう　あと
ゆれど　いま　やう　のく　ちう　ほて　とぐ　あう　まづ　うも　て
あぐ　て　うち　ちう　ぐい　ま　ちう　ほて　ゆ　ちう　ほて　ゆん　ある
さぐ　ひも　ある　を　ふる　ぐ　と　ちう　ほく　ま　ほ　ぐ　ふ　ひ
と　も　ふて　の　ゆ　ぐ　ひ　ゆん　ゆう　ほう　ひて　へ　ひる　ま　ぐ
ま　ま　ゆ　ぐ　ほ　ゆ　ま　ぐ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

（二人ゆう　常陸ひたち）

ま　源　か　湖　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

（常陸）

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

（常陸）

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

（中ぐちん）

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

（常陸）

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

（常陸）

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

（常陸）

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

うぶうとうとうまてぐちひてぐ〜と変りまいる
かりうちのすぐれさうんをれねびまる。
ちかあてまえんちうん人かをねばけぐやすくえいべ
しされどさびきうとうとうちうあうやびうめる
人のうてくいまれぐうくまるくべうと人とも
ぬしうめをうればすうて人はそうらうくうと。
なぐううて世中をすぐうんと紙ねばふなり。
常陸
うとまうくるんとううひて。さもとくゆうすうて。
あういるまうたさもくの絵。れ中ぐうを云へ地ひくへいまうとの。
うれまうのれ浦方まはううまうまうれ文るぐも
とうつうへうぐめうれど常陸うとまはくうくうとうと。

きうれぬ地ありぐうふぐいうるのぬうりけう。常陸
まへまいうて。うりしべうきうとまて。ちんさいる。
常陸
うこはいうまはすぐ出いりへすくうけぐまへまい。
ぐびぬ人のうまぐくいひまうあうんとうる海あう
あううき乱色なれど中ぐうり古近お将愛のれきうて
まてるんうまう数といいうきうればおひうう中ぐうう。
うひぐぐげるうけうて。ううてうりうねううて月ぐう
ううのれうまはせうそこ空うき世の成れゆうて
まうて。れ自の行まくうぐうう空うき世絵まる絵を。
日をうううひいつううとうまる月長行まおうう人のア
けりやう。雨うまる中方のれうまるまれしまへど。

常陸
ひの夜のれむすめまたおとこをば。おごりのおとこ
ようこんに。世の男にあたへつゝひとやうなるこん。
ぞ。ゑのれひとなり。給。やうれこんごちかぐで
ワるこの。ゑのごとく。ゑりづきをりて。ゑり
さげこゝろ。おもひあつひうこゝをるよ
うこゝてゐん。こゝろうまひし給人ぐまれし給。
めをとこすぐよそれれわびひゝあかごちるやう
ゑで。おさくうけられ給ぐでげとうておくく
ようこんとびんなりめべきこゝとゐんきちよ。
そこゝろ人ぐあまる給ゐれがこぐ今ばしまぐ
ちひてゐんこぐかちしこぐこゝくこゝうひゝの

うこゝろこゝくこゝれこゝ男こゝん。こゝ人ゐるれこゝし。
をこゝこひゝて。男こゝぐめゝしゐぐこゝこゝこゝ人
ようれし。給こんこゝいふこゝこゝこゝこゝれべまこの。
れこゝろぐこゝのまこゝまぐおこゝれこゝまゐこゝ
すこゝゐこゝゆゐい給ワぐいこゝこゝうれこゝくこゝん。乳母文
こゝまこゝぐこゝこゝれこゝれこゝれこゝこゝ。常陸討
こゝこゝれこゝうこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ給こゝぐ。
海こゝこゝおこゝぐこゝこゝこゝこゝこゝこゝべき人こゝれぐこゝこゝ
ワこゝこゝべこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ぐ海こゝひゝへこゝこゝこゝ程こゝこゝこゝこゝれこゝを
こゝ人こゝこゝひワけこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

ときとくもちいれさきの人のとよゐれべはの
ままちうちんあをきとき変ゐうといとく作
ぐ。ちよがーとうが家ちよばしけうれ心いちう
ゐくきりそうさういとくうれしくさひみへうく
れことまして作ちれいとくらうとくあまれ
ワうハ作りおまるの中うを色をちん金にもうへむと
心作るの結人へぐおれぐ。ふまれ世の人の心さぐめ
ちくこうして作うよ中くひものいうさめ絵やえんの
さぐうよ。さひさぐ学ううともちくてちんへぐで
うちうやすくもきの人をうんとおけうれうすく
心なうとおね変よをうきまりて。おおね変ま。

ワくうう寄りつうまうりさ。家のこうて寄う
しよ。ふくうやうくよ。ううまうまねしと。
心うこて。さひ笑しうぐぐうる家ようち。
つぐうて。さし作う手びの作ぐようゐくさく
学し作てちん寄りもつうまうめ絵うれ心
ぎーの作けう絵毎くうこまちるぐう作きれ。
ぐはきんハやすきこくちれぐ。作ぐのれうろ
さぐへうやうこれ（うさこ五冊）人へとの人んこう絵ちん。さひ
さまへさぐう作うといはくうまやうこいよ（中ぢん）色
げちありとうれくうう（汙）ふうちうぐはしぐ
ううべきまも作ぐ。これ心ぐしいぐひと一和ん

れやうゝゆくんとねがひたてまつりけるく手
うゝめ行きおこすまとゝ也。きんぞちのおやのやんご
とゝなくゝひとゝとゝてゆくゝんとゝゝ。ほいゝるゝふゝ
きあ。ゆすゝゝやうの行ゝとりごゝゝゝんゆゝまひす
べきゝもあゝずゝくゝるんのゆひけ。人がゝゝいと
やむごとゝなく。なげく心ゝまゝゝゝおゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ

ちはやぶるかみよにもあらぬ人の世に
なにかくるしき恋をしつらん
ものいはぬ木だにあはれと思ふらん

あっぱうへど・うくうぜうちゐそてうちゐ
めつり・だぼはちうんぞくらうどうんちゐぞ・
あまりおどろくこゐ・ぞくとぞまりけり・
さて（浮世毋）れのうくまれくくまれこのやぶざこ
とまおもひちぢめ給らんよひきうぞべうん
ひぐくうくねぢけうやうはうちゐて人もあ
らん・いさやくあぶしうあひうゐ紙・ねうわ方も
れ姫（おあい）ぞいとやむごとなきゐはうひうづき
なり給ふりうぐるれうれうて・うも
はとるび給紙心ぞうこうこうとるひてそるうまと
おもむうて・まうれけうりうくうこうあ

ぶろいうちくうれつるぞうづくといひ
けるものうちけるくいふもいうそうんと
おもへど・れ・ねうりいうとうれ・人まは・
すうこうらうとまもるぞうへてれもこうと
をうそと・いとまくうこうこうぞ・ぞとりゐ
ぞれば・日紙ぞはうりうへでうぞりしうれまぞおい
しうぞめけうぶのくうい人ゐわずいそぞうこうて・
人ぐのさうぞくきうせうこうひるぞうくうう
し給れ（浮世）方ともうしうあしもせうりうくうひて
こうるまあれうなどいうう程の人はうせんもおうしく
わうこうこうゐと・義やはやはうれまりておひ

ちゝ殆いまゝうばゝ殆もとゞまりまうとゝ色
殿のゝ治ゝん殿まゝ殿ゝ殿けるくともあるゝいやひ
ゝゞゝまゝゝされどゝうちくまゝそうくまゝへ
殿のをとくゝいうこのゝ常陸ノこのゝともおまひつゞまゝ
ぞゝ紙君ちゝん人へも中こおゝゝめまひめべき
ゝそゝゝゝれゝゞゝゞゝゝゝ

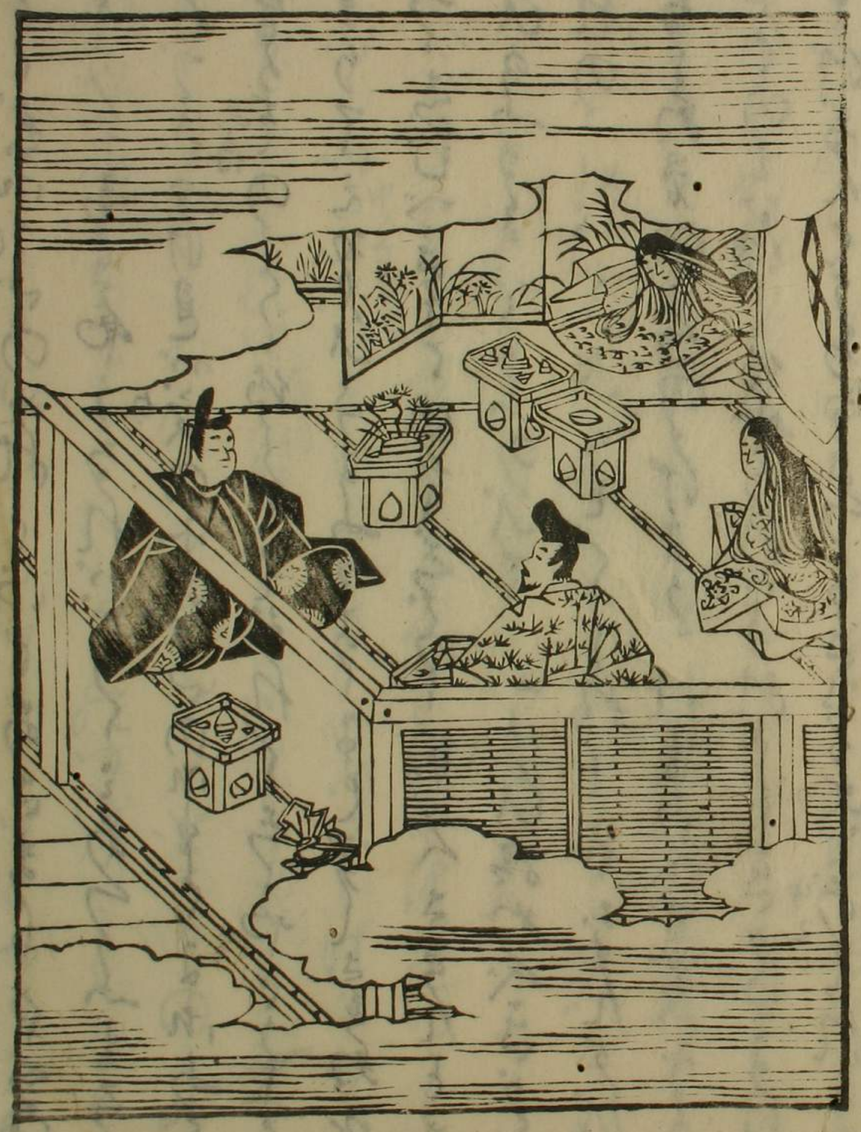
ちゝはゝのうへ（うきまゝ）の方あるられて物もいとれて
さぞりさるる世中のうろうろ紙くさづれ
泪もおちあぞりさひつゝそれてやをゝちぬ
ゝるまつりてゝるる（うきまゝ）いとらうげるおうしげ
まてぬるへふるざりとも人はとり治ちぞ
とはとひるぐさむめれとふうり心うる物と人ろ
心ちりろ（帯性）そのれいおちるぞおるひあけうる
この男（ほう）のゆりとおもん人のるるい命をもち
ゆづりけべくゝそとへおやるとゝなるづりて
まぐおさるくちりあゝぬ人をゝこゝてうくい
いひるるべゝやゝ心うくちるさあるりてゝこば

ゝゝぞとゝひぬれど（帯性）このくるもぞゝるる
ゝるゝひてうけりゝぞめれぞあさまゝく
あひくゝるる世の人の有為をゝるるすべて
ゝるゝるゝちいれぞとゝふいでゝうゝる
ゝゝるるゝぞゝまゝ
めれゝもいとゝうゝぞれゝ打ちげさけくいる
ゝるゝとゝゝるるゝ（あと行）ゝゝ（ほう）ゝぞ紙ゝくおゝて
ぞふゝとくゝゝもゝゝず心ちちゝくいまゝ
けるゝ（おお）ちるれいおゝれゝれゝ為をるゝちぞゝまゝ
ぐゝ（ほう）をゞ心ゝをあり拙ゝひゝちるゝん人るゝそゝせ
ゝゝまほゝれ大（芝）れぞ食のれゝ為るちのほのる

さまりしよさうを今のごつ心ちゝ侍れ表よ
ろこ実し給ありれすくさるまうきて言もあばし
ゆりわるくいへいあかあ(毋行)ありそうゝやゝ人のいつ所
をけいい幸ばれりばうけるうん人へどいこどのなて
たの切(タ)貧(あ)窮(ぜち)家大納言(右梅大宮大臣源実房卿)或ゝ家るどのいとねん
ごろるはのゝ話ろれどゝさてゝすぐして
みどのれうづさむす(女三)めばえ(光)へる恋(光)という
ごうの人をゝまゝやうはばさん(光)みとく(女三)家
をどのれうるあうきて。ぬぐもうんといばし
もゝるんそれるばるめでうされあううれども
いとむいるうべうきりこやのう(中)へのく

さいこいゝくゝ世るゝ上るれど抽ゝりゝるばし
うう紙ゝれいいうもくゝるゝ心ちうん人へのえ
ゝそめやずくゝれもしゝうきゝはあゝ我身
まてもこうゝ手。家(ハウ)のれ身伝いいとるきけく
こくめでうくおうくもきうど人ゝずるも
ばちばるゝうばいどゝうはこうろうくいう
りゝこれ(常陸とき)いとゝいうひちく情(なさけ)ゝ歳あゝうさ
人へれどゝひゝさともむさるゝ心ゝるゝさとゝうれど心
やすゝて手ばをもゝるつゝりゝりゝ
心どへの。やうゝあいばりゝくゝうゝいゝるゝさゝく
けそゝくゝれゝるばゝくゝうゝあゝゝさゝくゝあゝく。

かくこそうちいさうひても心はあらあらをぞ
あらそふめりよ遊ア みこうちまて こうやびうるこ
ろづくさ人のれあうりといつも我うぞあるでい
ひあらじようづのとく我分うらなうとうとや
さへいようげうるくくそこまれど いるまて
ひとつくへるうずきてて まんとうこふうえも
いそぎうちて 汐 ぬ命ちぐ ぐうるうよめやすさあまる
あるる我これ泪どいあらせめへやがて 恍 るぐも
あうくくきてられ れるうる我ごとうはうる
ちうようあれいどうつうう とくあうくむまぐ
うて これうのるまうきてふちるうくきつうひ
ぬうぐめやすさ後ようるあうりくう
ぐさうぐうきうる事をぬうきうる屋鳳 ぬまてき
て いぶをさまでうてあつあてぬしまいるぐあや
きうまでうくうへて 心をやうていそげぶ男
ミぐるくくうれぐうちいれうていひてうば
うぐまううさうれうるいあるまてうるあうう人
のれ心いうくつまうてめうぐおるぐまなれぐ
さううもいうくくいうひうるうぐとうこうひ
つれれいれいせるあうさみいるくやいあうて 姫 を
のううめれうくあううるでつうひうてうれい
くげうもあうず 享十五六の程 ていくちいさ



やうなふうをうるうへのうこうけうてげてこ
うちさのほどるすそいとかやるりこれと常陸
ひとめでこうとさひうてるでつろおるうへの
ようぶ面ようさひうまへれうるへとさもくさうへど
へうのけうこくくうこうるれ絵かれるれば
れもくさむこうまはさくすうへのおはか
あるされうんもちちあうこうてるんとくれ地ちう中
へはこれていかもいとさこうりおかとこぶんも
えれくくのほくいうあくくこかやうちうこくく
よろげのつこかうまじうこうひてそのあもうへど
こそめね

くゝ忘れぬ（浮世）のめれとくいとあさましくさび
ひがくまさやうなれば（白）さくこあつふまこと
ろづきるけしば家のかの（中）るのれまくなれあを
なるそのみ（月）くゝ侍ゝでもおれくこやさうこと
まりてえあひうまつるまも男しきもわを
つきむべきこと侍てきぐゝ取ゞへきんとも
ひあつるいとおのびてこうひ始めべきぐく
れのるいもぐいくくうれくなんゞび
るあ為ひとつのげようれもあへず表なる
ものこおく侍世ちれば（ゆん）れまきこるまは
まげちんこうちるこつるきうる文とあられまハ

こ給ゞれどこ家のさゞりゆゝ侍ゞやこうゝ
人をれひとり侍りておりくこんもいとつて
まくゞこゞゝこゞゝ海まて世あゞれんも
ちゝずゞてこんこそこゞゝこうゞべれ
こるこくてゞこるこるこまらばんもおき
人のれこあまこゞゝこうゞべきわゞ侍ばし
もゞふふが（中ノ宮女）まくまもいと心ゞゝげるひ
やこうれば（大輔君）ゞこうやうこそハ侍ゝあひゞまくく
ちくるくまふの給こ世そゞゝこりのまの
人のれ中ままゞゝと侍もよれつのこと侍り
あまりいくこるけるくこのこ給まゞこきこと侍るゞ

笑て（中汨）ささやかれまゝのこゝろよくへうゐ
を出て（ゆ）とむつゝげのゐめれど（中ノ巻）さてもすぐいの活つ
べくいふぞゝの程といひつゝつゞくうれし（浮舟母ん）
くあるはをて人をれず出（浮舟）るもれれあうり
とびむつび笑まゝしくとふ心をれど中ニ
ゝろこゝものいでゝをうれゝとなるふか（常陸）
おねのあつひをいくどりめでゝこゝと紙（大道）
きんとやつるそのゝこゝくゝうべゝこゝくも
きゝあ心はゝぶならゝゝあるあづまぶあども紙
をゝまゝろゝてゝるげゝでけゝひ抱もゝろゝこゝ
まゝるむゝこゝびいゝゝのゝゝりけゝ紙ゝするゝ月

それをいとゝうゝこゝゝおゝけよあるひそれば（かれん）えも
ゆくあゝまはゝく心ゝゝくゝりゝゝりよゝりと
ゝひゝりふのゝゝれ程をゝすゝゝゝゝゝんも
ひゝゝゝんとゝひゝんゝて毎ゝすゝまゝゝ
ゝをゝゝゝゝゝゝゝのれでいゝゝゝひと（常陸ノ宮ノ）
ゝつゝひゝゝゝげゝゝへいひゝゝれど源お泥ゝ（りゝ）東の
ゝいゝはゝゝむゝのゝゝゝのはゝゝよ所ゝゝ
（浮舟ノ方ノ）れれゝゝゝよ（あ）らうと（少）すゝつゝめれゝゝゝうなゝ（浮舟母ん）
はゝりゝゝゝゝゝん（浮舟と）ゝすゝゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝず
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

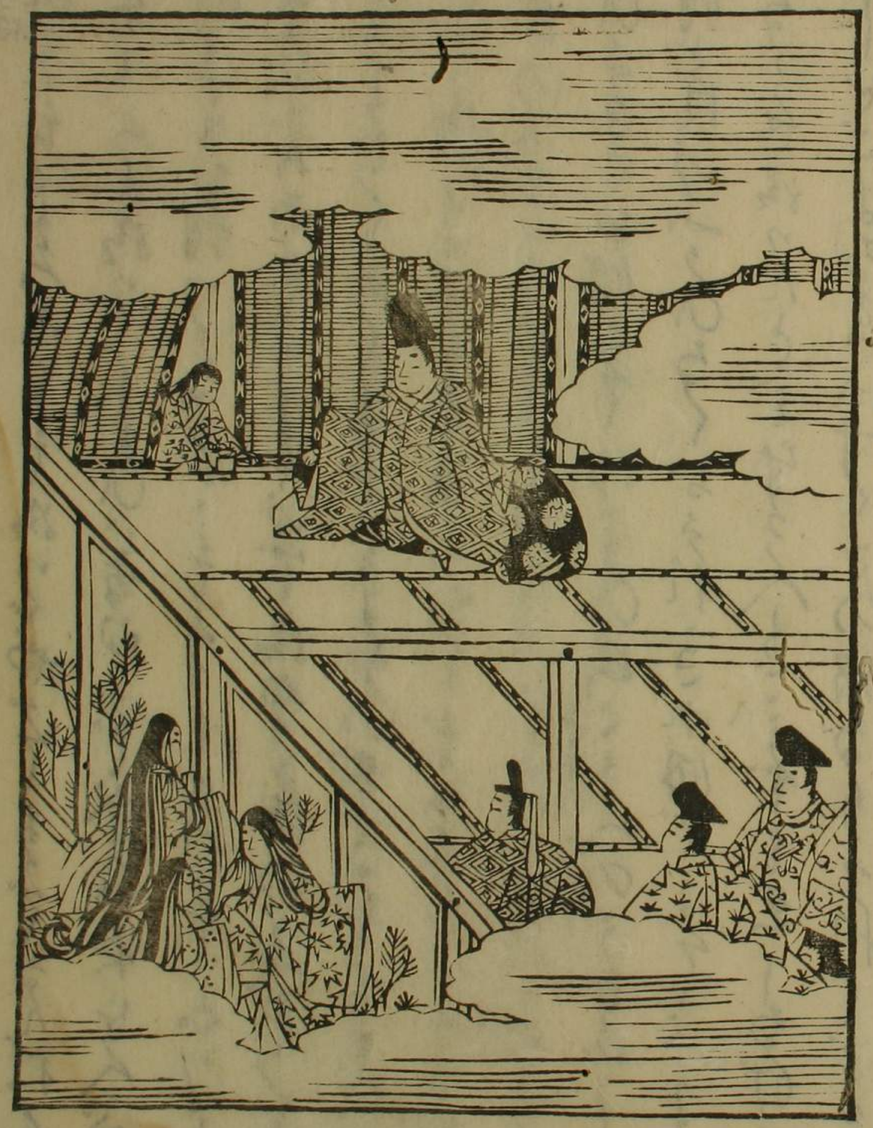
へのすさ紙おれづかあるとき人へぶくよゆゆい
給もぞりしあるりをあかぐちよ京さ（中）光のと
ちうさ人ぐ二三人ぐだりもてうれひうちん
わるようて人げとさとさうるつぶのしうう
寄びくもうるりつれどうとくぶるするづる
人るれいるるとさいたぢ給りぶいとあるまぶし
くけうひうくまて（浮寿母ん）ワづぶのれなつひとをておい
すれ有猫うやまくぶゆゆも表り越も
（八ノ如方八浮寿母ノとぐミ）おいのるさはいるれをるべるひとういけうう
まうといひしぢるうずるへられをぶちち
かしてうくへるるはあるづるとさふは

ふおてひつびぞうるゆもけぢさるうて見
れ物いるくいひてぞれべへもるぶ二三日ぐり
（浮寿母）ちくぶもわるりうるこはるのぐるこれ（中）れ
けりう陸をうる受（白）つり給ゆしくて地のいぶ陸
ようれいぶくるるる物をりうる陸ちあて
つぐれもしべるるをて　うるふるめしれど
うるるはうぐづとるひうちのるうるう陸
かるうも人の浮ぐくもるるくるゆる五位四位ぜ
もおひぐ陸づさるひて　れるれるとと
けるうるくのるとぐもりるぐドるる
やうるる五位ども陸もるとるぶるう

わがまくこの或るものぞうして義人ある因のれ使
まてまいれりれあるうりまをえちくまるばこて
ある人のれけるひをおられこしるべべでうる
れあるうりおくするめでうるようてるまふ時は
めでうる人ぐとゆるとづるめる也ちぐと
物うくをしるうゆてしうせてうんあるまるさ
ひれけりうあるうりをうればられぐるうりまても
あうるこうりかるうんハくいうぐうる感き
わぐうれとうるわるいぐうるてうけうて見
おうるおぐうるうるうるうる手をべるておいする紙
旨ゆやるて拍ちぐうるて落れうるちどうるど

うるうるにあひうりぐうるのうるびうくおるうる
れ有うる感をおるひうるるうるゆれど
ゆくうるおるうるうるうる有名れるばゆ本紙の
うるるうう落めれバわるぐハわるうるれとなぐ
まてあるびうるるるる人ぐうるわるれどうるやまる
うるておるれるれごるりうるるるつれ多いうるるる
おいるうるうげのうるけるくるうるるるこゆれば
わがるうぐうるうるるるるるるるるるるるくく
うるる人のるうるハるめるるりうりうるるるるり
ぬれバわがひするるるるるるるるるるるべうるん
まるるるるるるるるるるるるるるるるるるるを

[illegible]（常陸ます）ぬしの（清さ）[illegible]
[illegible]人ぐ[illegible]ぬるぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]（白）
[illegible]
[illegible]（浮舟母）
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



ちゝはゝ
ぎょうとちゝ
ちゝはゝ
ちゝはゝ
ちゝは

白河
れうちうちうちうちくさて給つゞやゞてまでゐんれく
ゐゝゝて給つゞゝゝひいゝ春ゐまで今いゝ夜をへゞさ
けるもゐゞつるゝさゝてうゝゝれとてゝふゞゝ
るゞさゐゐそゞゝてゝゞで給ぬゐ高のゝへをくく
うゝゝもくゐくまゞくゝゐゐひやゝゐおゝゝれが
ゝゞ給めゐゐゞゐうゞゝゝゞゝゝゝ

それとのゝへば（浮毎汁）たゞいさゝかもせまゝあるさ
まで、こゝろどのうつさ見えしてさるゝ心をごり
しらんうゝおかつ（方）まさまゝうばゝ紙このゝく
きれしもさゝいざさまゝやうぞさゝもいさや（中汁）
やうのまれと、へワゝ見れる心ちをまゝも中く
こゝやあゝまゝこゝてゝ心よゝてもあゝ
世ゝこゝてゝとゝへゝぐれ（書）たいゝるゝようあゝん
あやさゝまで把ワゝれをずこゝ（ハ）よのれ按の世を
さへゝひやゝもゝくゝうさゝけゝるゝ結ゝるゝぐ
心ゝけゝうゝかゝり結ゝ（浮毎汁）めずゝまゝれゝゝうゝ
ゝゝてゝんゝ見ゝずゝるゝ人ゝゝんゝれ（書）の

ゝ
尼ゝたゝまゝの結ゝけゝゝさゝおゝやゝゝゝひゝゝへゝうゝゝべゝ
ゝゝまゝ行ゝゝゝど、ゝまゝゝゆゝゝゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝけ
ゝけゝゝゝゝゝゝゝゝ

人倦（ものび）ていとうりゆうとなりぬれば心ぐるしきなれ有
ま所まそそはあるれどもるるまるへはあれば
れありまあいうやうまるめるへのまぐるころ
まりまもえるへこもるわるれがむげよ
そのるまるまひをまてるへうーまをぐるる心
まるはるまるぐふればまいていまあるまぐまを
れまくまりやけいはまんまいまーげなるれ
まあまるまるぐいまあるびてのまへば毎（ほまん）ぶいま
うれるまひまりいまひまるまあれぐまるう
まるるまあまるまるまるげせいまくまるまるまるう
まんひまりぐまといまけるまるまのまるまけ

まくまぐるまるまるま

ゆけりと、ものまもりひきとりて、ふれふるこそうづ
まるせ男しきてしたりゆ、ちぐうちふてて
うれバけよこづ（中ム）ちうでもあちなんとうゆ
ちも心ざ陸もえまくむまうらうしげるり物
ちぐもおぐろくしうしず、陸ようらあいうふ
物ちうぐるうぐちうくきふ女人ぐよもいぐ
よくうれてゐるり物ちぐいひうるむうしの
人のれ（大ヨ似方ヒ之）さ陸よおやちきまで見てなりてであや
れ人ぐまくめ結人（芝）ようせなうぐやうちひ
出結ちりしもたれ敗ちり結く人男あれば例の
れ末丁ひきいくちひて心づうひすふれまらるれ

ゆ毎月
ゆ毎月
ゆ毎月

もうし給はず。(芝)まことに
さ涙をながしぬれば、(ほ毋ム)げにあかめてこそ
ちぎりぞ。なほ涙のうちあてにさてげるやすく
ろうしげうこそづらうてひさいぐこなども
ひさけくろうれて心をづげるよういなく。
さはまるさ涙ぞしめへる内ちりありめへ
ちりべしれ前どものけをひあまるさてらへ右の
家のちやうを給ようけ給りて、ありうしふぶ
うやうちのさうひ給いざりしうばいとあくく
こなりて家の(白)れをちりる。今までふうひ給りる。
けさもいとけぶいて自分せをあいまう

れあやまちよりそしりさきてあはと
さうしめへばげ(中行)ちるるず。ちひやはあつさ
れよういよちんとげういへ(白地)家い内る
ちもり給めるれさきさてぐるずかりふる
ちあり例の物ぐいとちるつけよ家給とくる
れてぐいうへのつをれぐく世中のあれ
く成涙さうをあいはいひちぐすめ
うれへ給さ(中心)もいうぐう世をへて心るちれず
のこいあうんうれあさうずいひそめてうと
のすぐちるればぐりちるつぐとやちぐこちる給
へど人のれそさいちるれば物ちてりまる

袁ちれ心ざま紙いとまちまれぶかあはしき
うしろ見え給へるもあはれにつりちくち
ちげきて・うちれこころとやむろ河をきさせ
給へまはすくなきすやあんれ人べくの給
いで・いと中行あびてこれにつうるちんとほのめし
ちうて給へ芳れもちべての心ちいきびゆしくか
ひまるれどうちつけうつんぶうくきず
いでやまちれ芳れびこてまべくいそうとく
うあ時ぶ心やまくい中ゝ山水もまごりぬ
べくとのあへば中行てくてのれひしを
ぞろやと給のるひ給もちまうきあしで

きうばつるへらてうせあへうこれれのれ衣葉て
そ・ぶいつれいゆくとの給てもまろ湖ぶうあ
芝うゝ人のうくちろるうぶまるそへて給
うせでのちてまれまをんとれいのうは中れる
いひちて・まぶうつ
中ゝそざ河をまいぶさ巻ちてまを男まそ
ふげとくれうれまん・ひうてあまるまうやさう
きうれぐ・いとあゝそ給ちやとのうまへぐ
芳行つあまるをはさうりやいとうれうきやうちる
うげのあをまもはうそひ給うれぐさるぐうう
ちでまれいで海うくぞうゝいうでちぐさむべさ

とぞすぐいひつゝ（中ん）うるもうされざうり
そめるあれしうへもおやしとなまあんを（ほう毎）
つまこさ紙ごろひいちる紙とくうり絵とうて
らへやつ長絵（芝居）さいそのまゝうとゝろのを
びとへめるとうちつけるぐあうしかひ
ちるまぐうの絵つきさこせあてゝるげる
まぐういそいとうゆくさうちるしひて絵ゆは
ちるぐくもおこぐまこさうまでちんぐかこうひ
冥そうて出絵めるよこれ毎（ほう毎）いとめでこさふ
やうちるれさ陽れとめでゝれとのゆこうる
ふりてこびくいひしこ紙おうまぐこさくと

いひしこど紙有さ陽とこうるおれ何を
つうりてもこうひこぼしの光そこそまちつけ
さきめ我むすあいちるのめちんひとるこうもんと
ゆげちるさう紙こびすあさこうへとのこうか
らひてかゆ（たゞ）とくこうこさ物よこひけるとこやちこさ
まで之ひちりるそうよりねめこりいるまさ
ぐこらとちるものちるぐこうよへこうこうがいへで
いくくさこうめこさこうまで有ぐこ時ぐこうまち
へぐこうびぐこるめで冥力四強（さくう）ちるぐとこうこてぐく
のすづれこうくあめこうまこれこうぐこ紙
やむぐこちるこさこる佛の絵（とき）並げちるもこうう

ちりやすくつうぢんもどよもさりつきてのなへさ
ごげをんぐんとそやおどろくくしさものゝあか
れぐまづえ夜のちくくうまひしるのへぐ傳い
まとゝ結そりとくそなばゆれおさすくれちく
けうそりどこちひもいこぐゝ結そればよちぐ
いふもあうまるさきのゆせそゆゝされ有結れい
ちぐくちりぐめづうこくどもとずくろるゑうてき
さるゝうえいゆびてのゆへるうとはのゆう
の結ぐひそあつうこくちうねさまでくろぐし
ううずもれゝ結めう紙げるでいまのありう後
ちどとおまいうづうくさ必ちずべそれどよ

せそそひそそもちぐどちひうり結うんもおうぐ
ととるちひちるて必こゆへうゝとのゆへどづう
そあうをず人よあれづれづれどの必ゆてうそ
島のをうそえざうんすゆゆまでゆる人をさ
つれげる人のれ有後はけうひとうまりちゆるに
ちもづ人の行ちどうそもどうる人へのれあうりう
ちれうそそむううひあるべゝまいそうさ人は
心ひまりめべく仕めれどげちるあうるまれ
ちひのうれちやいうぐまうをゆんどうきも
うぐうれもおといふまれいうりすぢうそそひ
世のちの世までうるううさるり仕るれとも

ゆへとべれば、ゆくかくおもひうまへ作る。
それもとべれば、ゆるゆんどもくもあばしすてば、
まれもさせゆへとくさまれば、いとく見づらく
なりて、汨やうやうとうるの心ちさようちうけて、
ゆくさきの有さ海いまりぐさきさけるげさて、
ようる地もの結ぶ所ゆるりぬ、明ぬれば車なるべおて、
さて、常陸のきうそてこなるべいとくさげる
をびやうれば、浮舟汨かうべけるようろげようを
笑しさきてゆんれもいげうくををて、いを内乃
中よりもいうるとをひうまへめぐうく仏程
ずようべうずをもおもはしられるばおるべと

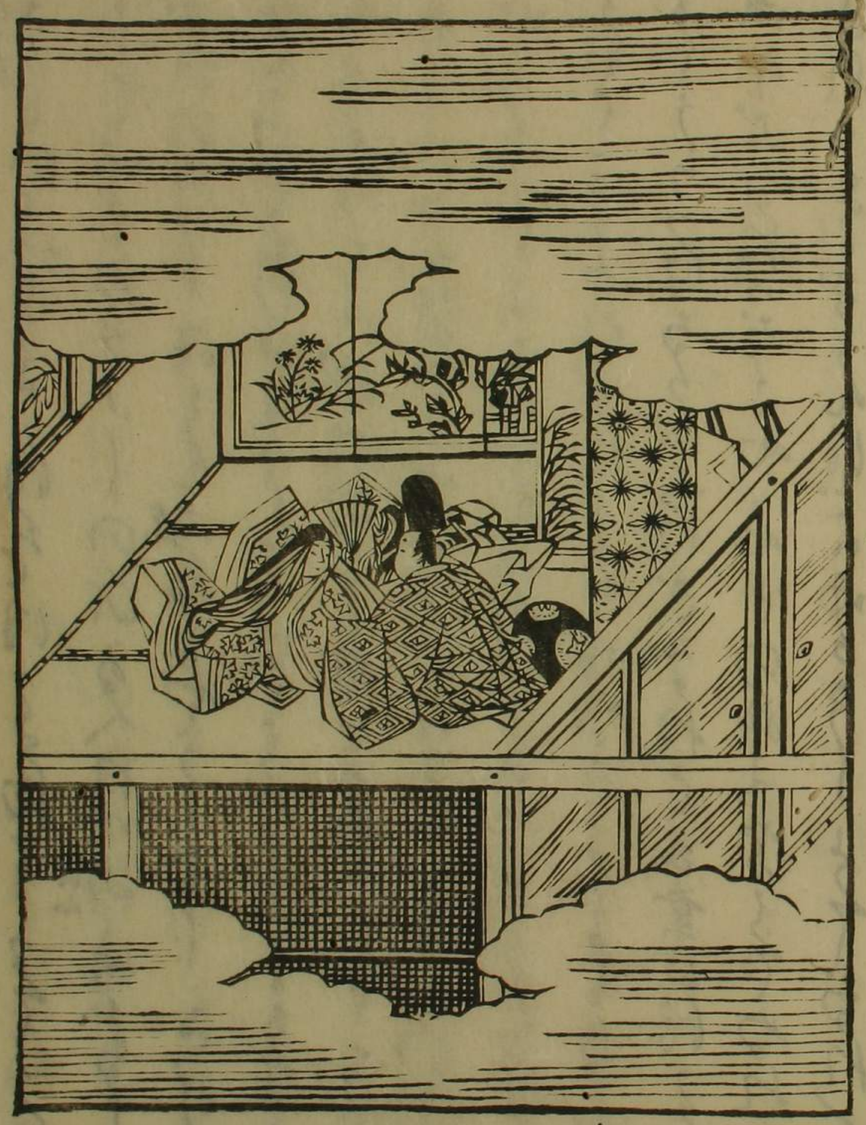
をもをくへさをゆへるべうちなるさけくさきて
をうさて、ぼんこれれうくもいと心ばそくるるあ心ちは
うちされ当んうをさゆへべいまあうくおうく
さゆるあうはさべうもこるれをんとさへべ。
きすべるうれうくあ仏そう車ひさ出る程の
すうくあうう仏ぬかよ白変うちうまで結ワ変い
ばつうくあ仏し結るれば心のびうさ海まて。
れ車なべも例ゆるべおりますさうひて
をうとべめうてうれば、らうれ車ようをてあり
結ゆるべの白ムる海べうくさ程よいそざいづるえと
めとべめさを結ゆうん白そべを思びうるとうるは

まぎれいげるうしとれば心をしひよばしうろも
むすびつけしひさち殿のまでさき給とす（白者）
やうるれ前ども殿こそわざやうなれとつひ
あへうとさうもげまこそ（浮毎）るれこれ行やとうるく
さふぐこれれ（浮）すのとやふゆへそをのれも
人ぐさくるまねさく学えしけまてさしぐ（浮ノる）
こ行ぬくくさくやつしてこんこといこそぐく
ぬうこくさひるりめ（白）安いりのてひさち殿とふ
人やこうるより給心あるあぐけよいそぐさ
いぐつこうる内ぐひるぐこそこうめこてこえ
つれるぐぬ紙ぬぐしこうぐひての給こうよこう

ぬうこうこうこうこうぬぬはきて多いふなぐがワっ
こそのこうる友ぐちまてこうきけうへいぐこうこいま先
こううもこそぐぬる紙ゆへくくげこもの給ぬ
すれ人のこうこぐぬこうべこうこのこうる
こうぬい給こそぬこうこいこそぐこうこうこそむこう給も
ちうこうげこうぬこうこ（白）ふもこうぐぬはこのごもり
こうこ人ぐぬまりうへぐこん殿（でん）よいこうりぬぬ
者（きしい）の家いこくくこうこれこうやこうもぬくでをこ
こう給こうれぐ心ちこうげこて故（故）のぬ殿の君ぐこう
こうぐこうちぬんこうぐこなぐくけこあそび給ダ
つこう家（白）こうこうせこうへれぐ（中）ぬ君これ

ゆすのほぐりそうへどものくうちやすき
ちどりてはまへよりへもすちいさきワいの
ありきてはりあるきはゆすのほぐそこづく
あれさうぐきくてやるぐめんとそこしのへば
げるおいまきぬひまぐくそそ的いすすきあや
きつ日ごろをもれうぐせもてそふすざごれ
身はいはまるもれ九十月いでえとて行くう
まつせつるをくさいふいとあいぐ。ワうぐみも
孫ものりれぐそちるさまされれあるほぐよ愛い
くずこありきものて。ものくはれいちくわ
つくものえつる紙いまりのきれとそくく

きくのぞこ絵おすれはぐるうぐのほそめる
ゆうきうちうきものへいぐうぐのあるくう一尺
ぐりひきけて。屏風えそりそのつまる事
するえへてくうぐくびくひとへとちうけて
ちちん色の菊やうるよそちへくのとうものと
きゆうきるりて。袖ぐちくくそう屏風のひく
びくくまれうりう心をあくぐゆちあり。
いまりのうちおくうあちとぐしてこれ
ひくくくうふくうじといくくそうをくあ
ゆものてやぐくわゆくうう結も人ちぐるの
ちうのるれつぐちんざいのひとあくう色くま



ささこぼれうるる風り水のつうのいうこうこ
いとおかしうこれぞうらうこうひかりてあるべしう
ぬうりおうこうこうこうこうこうこうこと今すうこうこうこうこうこうこと
屏風のつまうりのぞこう治よう白浮んこうこうこうこうこうこう

白杯
さうもの　ゆきとよ　ゆをは　ぐ面　すまてく
して　いとくいさうしの　びめへれば　ぶん　ぐ　ちる
ずゆのあり　給　ん　ち　おれる　やう　ぐ　ぐ　さけい
ひちぐ　ち　ぶつる　さう　ぐ　ま　ふ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ん　る
る　ぬ　と　人　げ　れ　ゆ　る　る　ぬ　を　あ　や　し　さ　て
あ　る　ち　る　び　や　う　ぶ　を　ぐ　し　な　て　ち　う　ぶ　ん　い
い　る　う　ま　く　ま　う　ん　あ　や　し　さ　ぬ　ぐ　る　も　ゆ　る
れ　く　ち　れ　ど　は　ぐ　う　ま　ぐ　べ　さ　く　ま　あ　ぶ
く　う　ら　つ　け　る　れ　ち　ぬ　ぐ　ち　れ　ど　ぶ　葉　ぬ　る
れ　ず　ど　る　れ　ば　ぶ　る　や　ち　や　く　の　給　ま　ぶ　そ　ぬ　れ　と
れ　ち　う　ぶ　ん　ゆ　ど　い　ゆ　う　ぐ　と　て　ぬ　れ　く

ち　ち　ち　給　ま　文　ち　う　ち　う　ぐ　く　ぶ　ひ　く　ぬ　ま　ぬ　れ　と
い　ん　る　ち　く　ち　れ　て　ち　う　ち　ぬ　る　ち　ぶ　ぐ　く　と
う　ち　て　い　ま　で　ぬ　て　セ　給　ち　ん　と　人　ぐ　い　ふ　り
お　ま　へ　る　ち　あ　る　の　ぶ　ち　う　し　ど　ぶ　て　お　ち　す　ち　ま
う　る　ち　い　る　れ　る　る　る　ま　ま　れ　し　て　ち　ち　ち　ち　る
ぶ　ぐ　い　る　ひ　ぐ　う　ち　て　び　や　う　ぶ　の　ち　る　ま　い　れ　こ
ち　る　う　ぶ　ぐ　ま　ま　を　ち　ぬ　ち　る　ま　れ　あ　ら　く　る　る　ち　ぬ
ま　ち　る　ち　う　ち　う　く　人　の　ま　れ　し　く　ま　ん　ぐ　と　て
う　う　ち　う　ち　の　ち　う　ぐ　ひ　ち　ぬ　ぐ　う　ぐ　ぬ　け　う　る　紙
中白人　ち　を　と　て　ぬ　い　ぐ　む　す　ぬ　れ　ち　う　ぬ　て　ぐ　う　し
お　う　て　て　ま　ち　る　う　ち　ち　ち　る　や　ち　ぐ　ぬ　ち

なづもまいてごりうしをとりてる
いそぐまりてやうる面ぐふとてひきあげて
家もる面ぐりとくるを結めれとるをとりと
そてまれいくをぐらやアとるをぐをきへて（ほのあれと汚）地黒
ゆらんくるいくあやもくをくのゆるりこの人
くりぐてるんえうぐをきゆくぐるんゆぐすぐをて（左近汚）
さぐりうるぐちくすぐをくるりをとこのをとくう
ぐくてをひゆくへる紙御のくうるの御
面とをひりくうりの安の心あくを結まぐをこ
くをくをくれぐるいとをぐくをくと
るを結りられたをいるるみをさんいまりて

れ筋（まん）とくそいたのびてくをきあくてくりを
あきまくくるきわるくれもくくんど（句）安いをぐ
治くぐおあきまくくますでありてるおくきへれるを
るくべるくん方をぐいひつくくをくをいとをを
るべての今まりる度あくざありとくくろえぐく
ぐをれてどいひくいくいくを結心（浮ノ）できるげる
きくくをぐくてくきてくるるどぐをいくぐうるあ
ぐりるるへるがいく（白）あくれば情（うるけ）ありてくくらん
結方（うえ中）をくへるきくくくをおくくまをいとあくく
いるおまるすくんと罪めれば（中汚）れいのくくろうき
れる面れれれ面もいるるあくをくぐくくあ

雨まぜに降るとすれどうちやすくとゞまらでいひ
ちらつる雪とゝいとはなくあはをぐいうぐ男しき
うつゝ人ぐもずて口やうよろしきは
ますて給なくおやたちの人のれうをもれば
うハたうら給けんとはきまゝにまれもいとれ
給ふぶよ（左注）ぶ過てあるうまり給日にてあそびにそふ
れのそハれいもうろ時ハとそくもつうつうまへぐ
れうちとのてやすき給ぞうしそもいるすべ
ちとぞれれとそそをずまぐうれけとそ
ひておてまもりはりひきもれぞりまりいべく
（中ノ心人女）うたれとおれとうしてはとわ

ぐうぐまは雨うう人まりて（ウ左中ま）たうやこの夕暮より
れひもあやまを給をぐで今いうぐくをまくるや
ままのふうーーーうさ空を心るさりのれるやこ
れとそそきんとて（中ノ心人女）うちおわいでやいまとうあ
うくもあべいと紙ちこがあしくあまりかをび
やーーーうを給そとーへバ（左通行）いるまぐーうべーと
ちのびてうめきうそ紙（中ハ）へハいとうそようき
人のれなどうそあれずうて心あうん人へ
紙あうりとうへうとうあべうりとあぶす（左通）ありて
れ使のーよりもいまうすうーあそそーしげる
ーうをぐうぐうを給べうさ雨ままあれうーうる

これ、あり、例のおどろくべきやうにて
の給ふ。されば、女のさまつきの、ひとびとの、
なんなどいひ、つくろひ、ものいひ、給ひ、
ひとりごとにて、人々、もしあれぬるかを
ゆき出て、この代使とて、ものしてそへ、
つぎ、ひと人、もらして、中務（なかづかさ）の女、ものをあ
大きいさぶらひまゐり、車ひきい
づくにかとよばれ、ぬるにて、やがて
ありくもあるべくもあらず、人のあるすんなども
きこえありて、ひとびと、恨ちがりをそいで
あはれ（ほん）おそろしき美のまゝにて、おそ

とひきこえつゝ、あるべきかとうちあはざるに
きこえ（ゆゑと汁）すゝめおいこゝろびよつけて、ひきまゐう
びんなりそうぐおつまゐりそめて、さまよろこ
こゝにおれおそろしやうざうちるさ人と、家
ともやすこあれ、有様いとあはれにあるべし、
そのこゝろもれこゝろ、ん人へ、ものもの
あはしられ給ふ、人へ、こゝろもるゝいこゝろこと
こゝろへて、ものもれこゝろをいとこゝろ、ものこゝろ
いとひしこゝろけくあはれこゝろあはして、手紙
いとこゝろつまをあるこゝろを人へのひこゝろて、
いとおこゝろくあはしたつれ、常陸（ひたち）、女をを

いとゞくいとゝひ給そうぶひく所のれうんをん
あつひ給とて。ワゞこゞもとゞあゞ。すてうゑ
まらうとのおとゝするはゞとれれうびねこゞゝと。
あゝくきさまでゞ。冥。給ひうきもゞべうんをて
いとゝあゝうゝうゝ。すべてうれ。常陸が奢
ゐいゐゐるく。ゑゝ給ゝこれ。れゝくゝ。ゐゝゞゝまゝゝ。ゞゞ
うゝくゝやすゝゝゞゞ。ひつゝゝゝゝくゝゝゝ。ゐゝゝくく
ゐゝゝゝゝゞゞゝゝゝゝ

けうれまていやこ語ちんやとゝうとやすけよいひ
おうり（白）ゑいいてぞて出語ちり間らうさうまや
わうん（浮ノ内ちゐ門ゝ）のこうぐうり出のへばまれの語所
こゑもこうもいとあてまうぐうりまるくこうてて
心ぞへあうわうこうちぐうちずのてすぐ語程
すぐ（浮ん）ろうワづゝうくゝるばゆういゝ馬どもひさ
いぐこうて爰おまこうぬへ十よへづうゝて
ゑり語（中ん）へいくゝわゝくうこうてこうてんこうてこうぎ
ぐゝまうて（中汁）ゑうやこ語こうて（白ノ）ゑり語めれいぐゝまひハ
出語ワぐゆすうのゑぐうりまや心ちもうやまゝこうて
わうこうゐ語めをいうり（浮汁）へづれくゝまもゐばこう

らんこうこうこうゐうり（浮汁）ぐうりぐちのいくこうゝう
ゆうをこうゐゝひてこゝめれこうて笑語いうこうゑ（中汁）
れ心ちぐこゝこうちうこうりこうこうひこうこうこうへばゐる（浮汁）
ぐちこうも（二人とも三中ノ人又女）えうゝぐいくこうこうくゝ作こ笑ゑへば
わ物（白）をめまぐうこうさこうてぐこうこういこうこぞ
ばゐすんこういふまこうこうぐこうすこうりハいくゝわゝぐ（中ん）
こうちわゝくゝ心ぐうゝこうきワぐうれ（茎）たゐのこうこう
こめうこうこ後ゑの語めりゝをいこうゐはくゝ
くこうひうくこうむうくゝこうぐうぐゝくゝわこうこうす
人へいこうくゝゑこうぐちうゐこうこうゐこうこうひぐ
こうまこうこうすこうゝ心こうぐちうんこうこうをゑこうす

ゆゑゆゑしべうそをおもすれば（恋）いとで
うしとおもへんこといとくるしげ心ゆゑ紙
あいなくもちてそひめ（浮）人へのうへなり辛び
ずもちてざりつる人へのうへなれど心だへもちを
うれびえをひもちるまじらうく心づくしなる
世中いきづくしむつくしげるもれる我身乃
有様いあること如ゆゑ心もれどうく拙らる
らあもをいべうけるの法をぶれずるうし
けるまてぶるやすきるれ今いづくれ
まくきろろをひへる人（恋）へのるづくそ心もれ
るづきるよりづるもをひいれずるうるんとあるはす

いとあるうれ（中）ぶくればどみまをえはしや
られずちるるるまへるもうるしきはぞ一
るるひづりまておもすはそやるまておうしげ
るりこれ（浮）恋い海ることを心ちもけくるるまれ
どめれといづくるくるるくしるるも有はる
はすうんをづはるるまてをしはりまへ太を
のおちるづまいづくのけるるはりめるるうる拙
らんとをあてそづのるくしてるるのれさ
うづのまくまてだをの恋は拙をるるをんん
とへばをるて出れば（めれと行）いやるる拙るるとの
るづりは為あるるまてまやるるる

げんじさせの紙いとおもしろくゆるされ前まてちゝ
ゝめ写しさきてまゝへとてちゝおゝやまちもおハきゝ
れ方をいとつまゝしげしなるはしりびろめるを
うすゝこゝていさゝうゝてもせをゝまゝめゝる人
ゝてあれいうでゝはとゝこゝろまいとおゝを
こぼゝうとてひさおゝてあゝきはゝ紙ほんもあゝ
ず人のゝゝゝんゝもゝゝゝれゝゝいとやゝゝゝう
はゝとゝすゝゝめゝる方まてゝゝいゝゝれてゝ井
ゝゝひゝいゝゝゝゝゝのいゝゝめれゝゝ紙まて
くゝゝて更のゝくゝまゝゝゝゝゝ中ゝ方を
さゝひゝくゝゝまゝゝまゝゝゝゝおては

おゝゝこれまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かまへゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いと（ほん）抱てまゐらせてまぐひたるびとの心よりいとくるしくなんこと物もなくて幸（汁）ばいとくちをしくなるのを思ひえさせまゐらせようとなんとりはげどもあるぐさむこころにはてたるんとゞりいとつびとあるこゑをいふ（中）るゞさりをまをとりよりまゐらせようをまゐらるむ（ほう）ひて抱たゞまゐらせあへなるはつ心はいれてをもへるはつげ（げん）さるこゝろとゝゆかあるなくゝ所なるかうしげるりひとはいつきまゐらせあるりこゝろにはいとくはなるとゝろあるてさはゝゞそれとのをもひはせるればゐるこゝろをもゝゞめこゝ所をゝでいとく表なるへのこゝろれいゝで

ゆうじもまをけるよりあくんこゝろはいとくるはなりこゝろあるりこゝ姫（大）だんこゝ所やのれるゝ所よ我をゝくこゝへまゐりこゝろとゝをゝあるべどもいとかまゐしがげるこゝろへいゝゞをものるりこゝろはゝゞしこゝゞゝ消ゞをゝあるてよけるゝを抱こゝるゝ（大）れいゝゞりちるくゝあるまゝでゝるまくゝとこゝをゝこゝろ所ゝるゝこゝゝそれ（ほう）いまるまるるのうゝくゝしげゝりこゝろびのゝをつまゝしゝのをひこゝるけよゝゝ家ゝ抱ゝるゝ所めゝしをゝをゝゝゝゝゝゆくゝをゝるけをゝひゝるまをつけをゝゝゝば大（苦）れのゝ結ゝん

まもるこころをもちまうけ
ちひあひのそれ給物ぞ
なりてぞ物給(たまは)るいろよりをもてこゝへのれと
どもどーごろあしきこれ有海なるまゝ
どうろ給(たまは)いとゆーこゝはまずなりよけうをいと
ちびのうるーとさちうどべの心ちりの人ぐ
いるりてんかいとらうりうげちうれ海をいと
じーあばすべきひあるべきとうたいとあ
といへだんをぞさもあるじーうれ光のとれ
ひさすへてすぐろうろうれへしうきまて
もられてぞいひーこゝやもあひてもなうろうる

ろうげんへまとて行うそ
いさやこくさるまやあんそもちびう
まべのはけのいとあはとろりしもとあり
げやうけうう給いざりしとるぐうちうめうそ
いとあーぐめれと車こひてひうち爰へいる
かのうまうくといへだむ(浮舟)つづれさはぞて人(汀)
もうーうめうあ海よいひやうんさう(中)じみも
いうばあばすべうすぐちのまれまくうはあて
べもるうあ物ちりとをのが心ちるひよあいうちく
ムちりてダつるまりめ(白)まおりーまるーだうろ
やすうやおやうく心ちあうれげるう人をまいうせ

とゝそ。うゝろやすくいれを。ぞ。ゝ。ゝ。ゝ

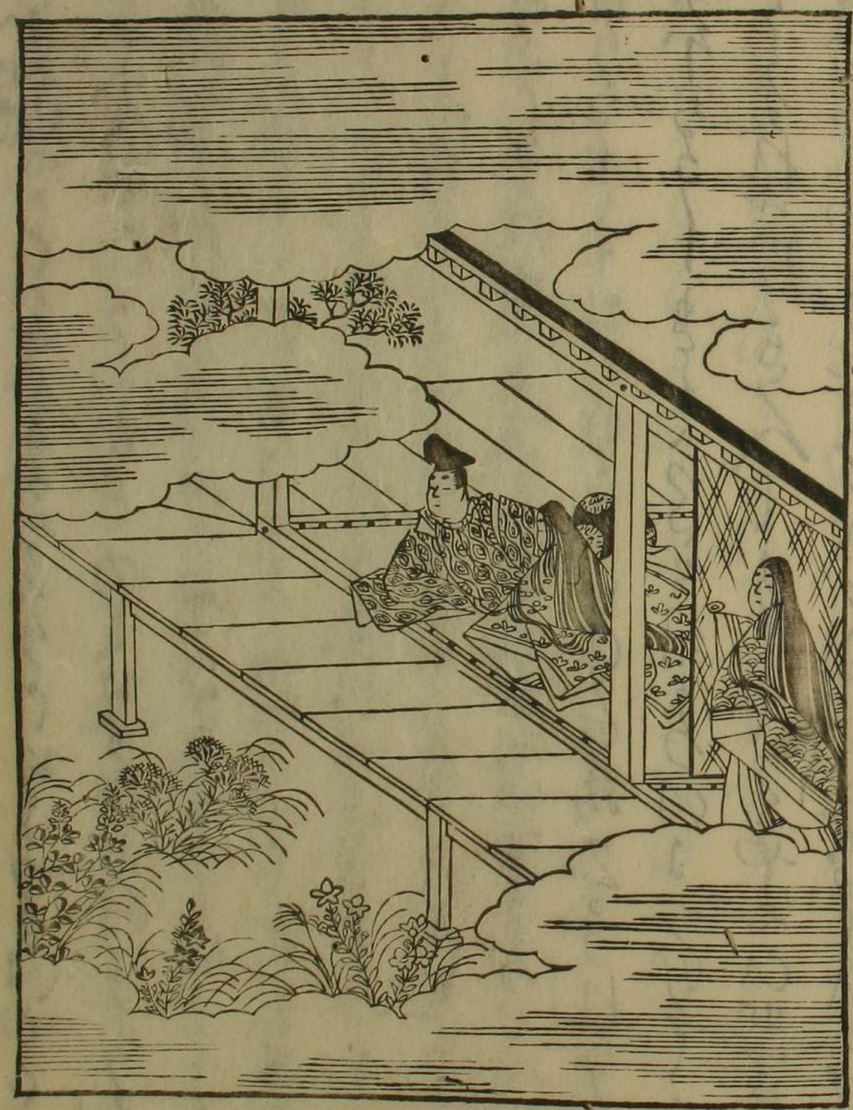
まづ、さいかちをもつて、ちんどうへどうろうにて、
そそくさすつぐ、どうろうにて、ぐつぐつ、ぐつぐつ、
ぐつぐつ、ぐつぐつ、ぐつぐつ、ぐつぐつ、ぐつぐつ、
すぐさて、ゑもんを、ゆんと、ぐつぐつ、ぐつぐつ、
ぐつぐつ、ぐつぐつ、ぐつぐつ

あるべくもあらねばうくるがごとくおもひなし
れさんとさぶらふこころいとこころつけて人
まもあるもくるしくふるれいたれんがやもとうあ
るうるうしかるにあるべいあるあるの人のうあるうちち
やすくこひのまうまぞすぐるなりけるうれ家まも
くくろくてはすべうりめべくれどしうかくろへ
さんをいとあるとさてくくあるふるり辛ごろ
ろくこくこくばなけられこるひてくこまこうろ
ばそくいりるるとさへり浮毋汁いまくくあられて
あやうげるるあるあるりさうしかるうるこうるへ
あるあどもめいぞくいるうへとれわどんん

とるぐいひさてはるもいぬくうもろめるれど
常陸ろう
うるいくぐちうくくくがいくくうくれ
ぐくうちるさてくるあれのあるうひとうくさもと
るるされるさひいそぐそくまろぐろるよ毋あるく
いくるまぐどさんずう吸ろういく浮毋心うくくれ人る
ろうくうるぐれどまくあるぐうくとまるくさふ
るのくのうれいけくくくろうるうてうるく
いれぐれ交のれまへるそいくいくくくくくく
しるあくくあるひあるくてぐれぐいるう物
るくうづまくをるぐいあるひくくはやみ
るうり変てはいるぐるゆんまぐうちるけるう

海えあまくさて（かわり）のぐうよおねへうひろけうぬ
（浮毋）ぬるこつりて：ぬれうりのぞくさうさあやの
ゐうつげ改よいまやうきのうちめるぐもうう
ゐ紙さて：ぬるこのるこんざいうとて外
うういづくはとういくさうげさあふいと
えじすのまぐうくうりまるぬ心まるさ海まて
そひうつうう交（白）のへ（中）のゐるびておいきつれさ海
ぐもの：そひいづれはにあつ一のう海ぐまやとうぬ
まへうるぐうう：祖（かわり）ゐぐいひさうれてぐちうけ
うういぬくうやうりまるひゐるくへひろげまも
うぬ紙れ交（白）ゐうつ：ぬくかねゐりうとうふ

ありつもいふとよ：苦（白）つ（かわり）今交（かわり）の紙（きぬ）のお紙とう
おまつろくもゐうれいうぐ：さうこのうけんおるぐ
枝ぐうるぐのいくえんゐうこと：一日ゐりて出給
はぐゐりつうがえゐうぐ：ゐるりまうさぬぐるふ
つ：ぬ（白）やのうちずぐまへうつ：さけの
さ入ぬうるこをうこまうぬ：ぬれも奇
ぬこおうりいぐや（浮毋ム）ゐうろぐきのはぐさあまへぐ
人ぬこあはぐ：いぐぐぬいくこうるりけ
ゐうりぐくいひおうぐいひおうぐ
いくうちゐげゐうぬ海いさ
ういふこそ：ゐうこ



母
さあゆひしこちぞぐへも面ちあり
いうるつ面ようけ手下葉ぞどおろこいとあり
くこちて
文ずのくこ蔭ぐもとくちまもだけ面も
ろろをつずぞあこまいこぞぐこちて
ぞあこちんとつひろ

こゑのれうとくらうちうとあるいとぐい
ぐんとひうくさのをあるひあけくるる
あいちう大ねどのれさ面うちぐひしう
ねるげようゆうおうるぐうめぐうとこまり
しうど白やいあるひもられあてくろもと
まぐおかぐりてとしいりまりけうとちふま
ねうこれ老大ぐるはばるうぐへ乃
けうるぐうちつけるいひけねぐられる
がちうきそうきられうげるこけてい
でうればけうさんもまりてくやちひ出罵
ねうん我物よきんとうくくらへをるひうけん

ここぐうこうきとうるべうれうどぐうろま
くうとてちぐめのきうれてどそやくてちやや
ようげるうんあうこぐ紙るひけぐく
るいとうこやむぐとうるされ月のほどれまま
ちるこまりめへくん人へいい面すうられめうぐ
いうぐううてはうろとくぐめ結うん世の人乃
けうう面をうくるをうり面うりいやしうあて
ちうされるまうるひてうるうち心もあうべうまれ
なりうけうぐこぐるをうるるられうほにうべる
やいあうめれとこの亂のうちるえるまれこえ
どと白えるうくべうそまうしいうくもロあし

ちしまさてしまさてしまさて

やうにまてるまくらこそ
ほ母
うらを毎月はあくあめとろをもくうてもふが
ふりとうふうまぶれとなくくしてさこと
どもをいひうてるん心のべけうれ大ゐ貴い
れいの秋ゐくるりしろぎひまくられば
ねざめくるに物ふすきをず哀るのと見くゐ紅れば
うぢのこぐうけうちてつくこゐるこづう
おりまうこうびさうこゐいざりけるる心の
もみぢ
紅葉もめづこうちばゆこぐちうんん貴うこい
いくこれぐこうけうるうこうる紅ひとそ
ぐてひぐうぐちめるこうしすゐをちひけうこ

こ八ゐもこうこうばしめてさ陸人てけうもうち
ありこるるめでばこうればつひうもるめゐまく
きしれこつこひいくこうこうとげまていまうこつ
うくをゐこ面やうるぐこうこうゐ紅
あぐろ屏風ゐるれあくくこさなぐいうれ
こぐこうのこうぐうのぐうるぐこうるるこ
山ぐめこうろくぐこをこくこうるこをめて
いこうるこくこぐいくこうげるゆくくくく
こうくこれこうやるこ水のるうろ岩るゐ紅
てどこうるこくれず
茎
こくこくれこ水こうぐうるこ人の面げを

ごとくぶめぐりけん。洞をとのごひつく。寺の庭ぞ
ろに立ちうのへれいぶ（手本）ひくうるーとくはりて。
こぶひそこにひそむ（茶）ちはげちようそめるねめて。
すぐれのつまひさかぐて。拍代し給（手本）ようく
ろへておろり（茶）のつめでまれ（ほ）人いさいつころ
文よりこそーとこすぐようねくちく云こて
こそどとづれちゐ。牧ろれちりつへてめへと
のめへば一日（手本）れ物ぞの文ゆきいこそぶとて。愛
ーこるもんあくれ給めるばどろもあやーきー
わ嶽ようくろへれしー給めるもいと心ゆるく。
すそちろさはぐちるーもーうぞそこにつてて心

やすろへべこそ給おくまーこまひこちーこぶこちやすくも
えそひこそでるんと伝ゆーとこそ也（茶）へぶのく
おそろくすめろ乃ようまろこそりぐくる（手本）
ちるびりのちぶりようと。
例（れい）の洞（ちみぐ）ぐこめりさーぶぐそのころやそくんと
ーろようそうそこーめへぐづくやちーこる
出給ちあとのめへば（手本）ぶ拍きぐと紙つへちべーんこと
ちやすー今こーよ京をこ伝ーんと拍うて。
白（ちゐ）ぶるえちあめとこ（茶）ちるてちもくも
人のこつへべそあーあこれひぐりぐこ。
はるこぐひてこ出ずやるけふこちひを

やづりて人のゐどひをとて語りんこそうとう
めとのゐへぶ人ワ（弁内）ワすくもゆくめこそくるこ
ゝもこそいでまうでくれとうゝげるゝくれど
（業内）れうきありうゝふをゝ例るゝぶもあて あうそ汁
車はをんそのゝびのをゝろゝるをゝをゝ美
おこゞまゝくひゞワざすまゝゝをゝ ゆゝるそ
のゐへぶワゞワくいうるゐぶすゝくをんと（弁内）
をへゞあうるくあゝくゝゝめれゝ心ざ面るれゝ
をのゞゝワゞれゝあるゐ人をゝちゞいけゝ語
んとをて（内）をゝゞうけ語ちめちをゆゞうをそ
れ文ゐゞをゝをせゐへゝゝゝうゝへをゝゝら

めをて心ちゝひのやうゝゐもれ作をんも面
をゝゝゝいゞゝゝめゝやけゝまゝゝそゐんゝをゝ
（業内）ゐをいやすゝゝべをゝを人のゐいいゝゝゝあか
めるれゞ出たゐいひをゝちのゝをのむすめをゐん
ゝをゝふゐゝちゞもゝうゝをんをゝをゝそのゝむ（常陸）の
めゝいゝあゝくゝけゐるありをのゝまへゞ（弁内）ゝれ
やゝひて いゝくあゝゝをゝゝゝ（業）れゞ出語ゝを
草のゐゝゝを弟ゞゝと記葉ゐゞゐゝせめて（廿三）ゐる
ゝゝんゞをを語ゝひゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝこまりゝをゝゝゝゝ面ゝて いゝゝもゐれ男（廿三）
語ゝずゞあゐゝゝ（今上）ゝゝのゐやめゝて人乃乃

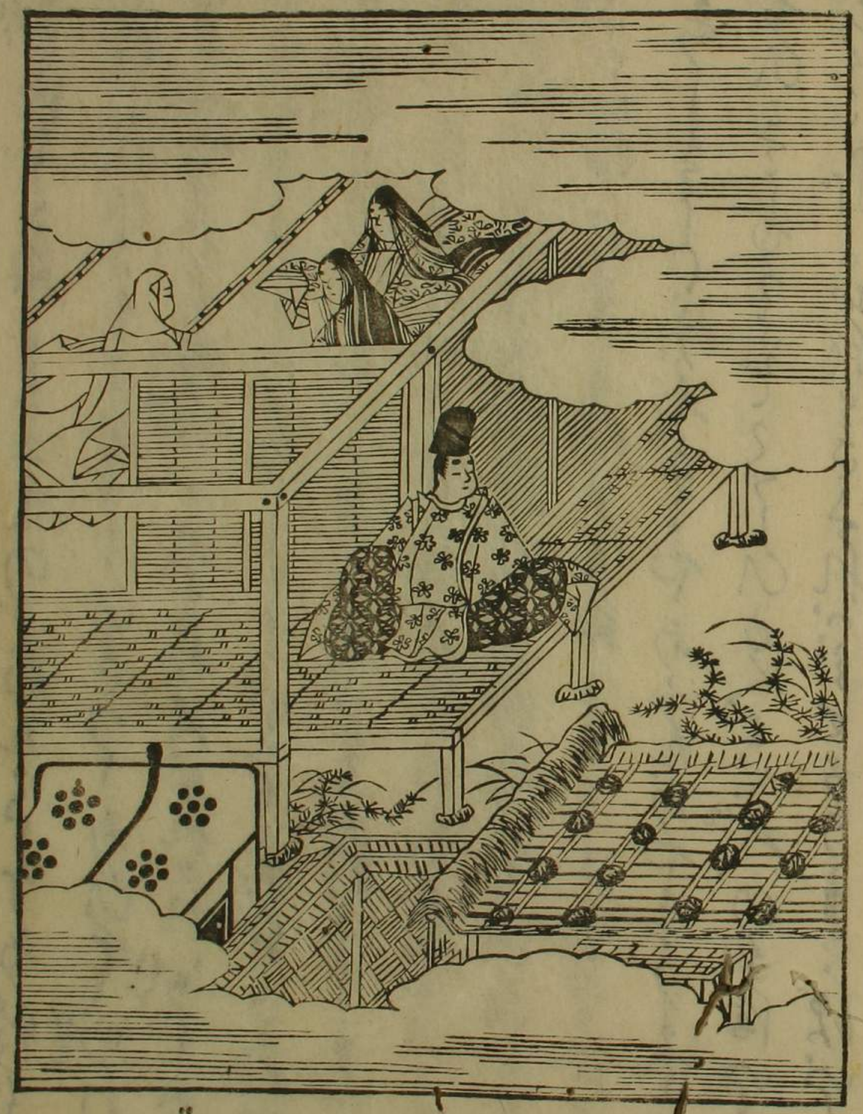
文まもゐ男のへぶいとやむごとなきハうぐうの
ちくさうそこのあつりこるるうるとうしぼさ
ゐしのふ文づへまそへて むつしさつるうて乃
心のそひうるもうるうりうりの話しまぐつと
めて むつまつくなぐとトらうのうるびひとり
うか。そうめ半えひけうりおそつうす(蓮行)ぐうちを
ゐれどもの御中びうめつ出てつけうもの話
(千)るるすいげべくのあうれば けくまく
うるつうれどうちけうそトつうひてのり
野山のうをうるつけてもけうつりの
ふうるるをひそれてるるめうつてるん

きつうさけうふとつれぐよ人めもうめ百ちれば
うろやすくひきいれてくるんまいりふつと
ふうべのとのうてていうもきうれば福徳(うせ)のうもう
きしうう人(ぜうて)おろうすおや(ぼん)ちうるまうすがめ
くくあるするむうしがくうもうけべうひとの
うそうれぐうれうてうびれるておやと男しけ
人のれあうりの人とうるむつまつうるうべ(弁)
人ふれずうるりうしぼうりいちひむうそうめあり
ちけまど世中うりうひあひへずてうう男ようて
れ(白)ぐるぐるふりけくめとれちれ殿のあやふうさ
までの話りもつうぐうるへあうつてるんと男四

ほ
ゑもめでたくもめでうしとき笑てて人の声
う海ろれば（めと汨）ひすれぬうの海よの絡んも義ろれど
よもうよりくあばしうそうろうんとはやひもうしば
うあ井すずうほどうようぢうようう人まれてとて
門ま（弁）びやうよううくさうやなんとあ人ば
弁おけうせうれば車とそひさいうろうおや（ほんと）
ろうあ（弁）おまえ忘よういめん絡いうんとそこのちうき
ちうのあづりのうちうをうせうまへれば（弁）戸
ぐちうおざり出うり（地）ぬすうーうちそくうる風
ひやくうる吹うりてひうちぐあり入れば
うおうりうりくうれもくく心とうめうーりぐる



れけうひかーうればうういまくあやううるまぐ
ちひあへぬほどうれば心ううぐそいうちうこんよりあ
らんういひあうり心（笑汨）やすうさ取うて月ばのちひ（ほか）
あよりも笑しうもんとそくちんいうを（弁）ぬりいうる笑
ぐうさうよりくうほ（ほか）ういうくうんいうをぬりいうる笑
こぐうーぐりてうちうおり（ぬと汨）ぬーまーうんをうちうぐうーうわ
ぬーとり絡りんれ（ほか汨）ぬうるうそくちんうを思びて笑
めうりうさほどうればういふ（弁汨）ぬくうくちぐてうさハ
わんぐううれどう地笑し絡りんいふうーもううう川
うべくもあ紙あやうちうさまで心のどうるれふう
うかーうす忘うればうをを人のゆうーうるくてあうけ



ぶりでなぐさめ申ければ、あやつ涙ながしいとゝゝ殺
ぬ人のあやまちを声もゝろ振(やぐるま)まして、やれうれ
すきのうぐれいとあやうし。れ人の(あのくるま)車いるべくいば
きられて、こうぐさうてよろうへのともべくて心ハ
うゝてあれなぐいひあるもむくさぐさうる
もあ心ちゝ泣さゝゝつうる氣もあるくよるぐ松
ずゝひて、ぐゝびうすれうれ、てるるおのうて
まさうゝもむぐ(つい)ゝやまげさあづまやれあるゝ
ぬぐあるあぐゝうれどうちつるひのるをひ
いどうる足ちまでおうまれまくべもあるうあ
べゝ

あと
とゝ風ぐゝ風はゝとゝ
しのゞれんゝなる物ゝ
れゝれひゝゝはあまゝ
ゝひゝきつゝゝろひて いれ
まゝ 四やすゝも 対面し給ふあ紙ゝれれ
ほと
ゝゝ やゝゝゝどゝいふ物さゝて いゝゝゝゝあけゝれば
ひゝぐのゝゝゝもゝゝめゝゝゝてゝれゝゝゝまれ
のゝゝゝはゝまゝぐねゝゝゝゝゝずゝゝゝれへゝてゝいゝぶ
しゝ給けんゝゝゝゝれへゝゝの〇ゝびもの給ゝゝ
ゝゝぐゝゝゝゝゝ

つぎやいろ〳〵つくとぞ
いとくあく〳〵ふの和ある
づ〳〵ぬぎすやうあんう
ちぶ月いあすそちぶ
ちぐさしふい十三日ち
あ〳〵ぐ文のうへこ
ものびてりうゆ
こゝあれどまこ
ちぐ〳〵ぬぐのて
てんうこるこ
までのふ人ひ

弁と二人ぐ
りめ
ちぶ
ぬ
ぬ
ぬ

げる。あま（弁）だいとりて、うるくなるゆうるつけて、
く（大）ぶだのれとりてうやうしてもうなりけ
べうしぶるればうけめとりとりれど、
るうるばして、つまくすれどうひそこて
るくを（ばば）ばいまくまて、ものくちびめよりうち
ふ、そのうそひうるばどるぶるるぞう
いやめるとよくおこまもうふ光（池）うもれも
すぐうるうぶまうあるぶ袖ぞどうそうよう
ふ（恋）ぶり（恋）もうう人（ほ）ぶくくうのぐ（恋）れ袖
つけてもうしうこの恋しさ面うりて山めくく入
まる。よううちうるう心ちしぶううるうめて、

よりぬぬへる袖のうきちるりるぶうう、すぶやうう
むうりけうぶ川ぶうるぬれてれぞのれるお
ちるれちるうしの恋のぶどうくしうまず
うるとおうしけのうるうるようけくひさ
いれうまふ

（恋）
うるうぶとうるつけてもあさ霧のさう生
きうまでめるく袖うれど心るもあぶひうぶう
ぬとううて（弁）いくうちるるぶうり尾ぶうの袖あるさ
ぬうす袋（袋）つうう人あやううぶううよれ心ゆ
ううちうるいとむつしううとうひうこうちは
あびぶけるうれずつ（恋）我も恋び

やうにうちとのて（蓋）さすがにいづかまつりんと
いとなりれいおまこのうつぐろこれうちとゆき
ふえびうさるる成なもあるそこつとるく拙表
ありれすうあさあぐりてこれ山の色もこめ人
いとむもれうやとさあてうさおうごうまへど
なりうらはるうくしてけまつばるこぐ
うまうるぐいとよくふせうれどおいうる
あまりなるうきすぐうろまくるあいぐ
いううあいうる拙ううよういのあうしびもち
拙しいやく拙明るるさうるすしびるしき
そふもうちあべありなりつうて表ちうもや

やぐりてこ拙うんこれるようりてうくすぐろう
まどひありくもれまもあるちくまとちひつげ
ゆて（車うり）ありていすうこうろもひてちうあす
なん（浪）ちくぐのさ拙うんうくちるぐいとちるげうけ
れどえんあうさ陸ゐこうろうくあまうこの
ゆみまるさるぐさうてありあいまだいうるるこうも
さうるありてらうまでまるをつぐくゆまべき
すまゆまもあるあ成よういうそあまうるれと
うう拙こけううり倒の人ぐはくぐうまでゐう
あけまうまんうれればいしあまだのるうう拙
なん（浪）たいちげりつれぐこれ有拙いとくれぐし

河のくしを山のいろまてうやしうつつり
ぶねをこぶきてゆこうのいぶきさぐさこぬる
うちすれどふるまてかいなくしをするようぐ
うそそあやしうもゆ

[illegible]
はるけのれうぐりすぐこそまへどこそてふろ
しるさはるれじいそぐさ　ゆて　ぐり
ごちのちやまこそ　西いこるけとちひめへ
出てちんうあすこそてしこ伯べさなど
こ家ものも姫家ものも　ぼんうちとけうれ有
今すこしおうこそいりあこしこうもちづこ
れどまてくすべくもあこでおのてり　女乃れ
こうぐくるぐ色こるこくとそこれこれど
すこしお中びこうこもうちまづこてぐ　ぎろの
いとおへぐこうこれすぐるのおてまこ西めこ



うこのこも出れてくこのすこのおこしげさ
るぐはこ西ぐくあてるこ家のれぐこのいこぐく
めぐこうこまこもとこまぐこりくりとこ伯ゆを
れへをいうまてるこてあこきんとすんこぐと
まくこしげすてれ家よむくすんもをど
こうびんるくべこりとそれれあるけを
こておはぐこまぐらこきんはいるこん云
ぐこうまここてあこんくおのもこぐれさ
うぐうこくべく表ものぐこうまへぐをろう
るこぐこうひここ伯こ家のれこともこの伯ぐで
てぐこう西ゆおこうこまやこいひここ有伯

のべぐ〳〵ぐ〳〵つまりぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
うる紙さうぐ〳〵さうぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
まとるさいぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
うざれ心まてつけて出れぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵

いふこと侍りとてあるこゝろ詠けんなどひ給
そのやまとことばゝうさあるひとゝなれど
まてこれをいふいとゝるこゝろとそれうと問
こゝろこゝろをきゝて えはまくまこゝろんと
をばとゝが今うりこゝきゝたれめうは侍さ
わるべし 琴いとゝやこゝ王の 巻のこゝへの
こゝのこゝんのこゝとずこゝるもゝれゆこゝ
のこゝひくあこゝりこゝるこゝひてゝいとめでこゝとやう
ありと侍はゝ可あこゝりこゝうこゝあふぶれ色も心
きゝけべきやのいこゝへとがこゝるゝひこゝる
めでこゝあこゝるとこゝれこゝるあこゝうこゝとしも

こゝてあれあやこゝくこゝいひてこゝれとなるを尼君の
こゝうこゝぶまれまいれこゝのこゝるこゝ紅葉つこゝ
こゝるべありこゝこゝゆくこゝこゝぶこゝうまぶてゝこゝこゝる
こゝこゝふこゝうこゝこゝこゝうこゝこゝ袖こゝ陸こゝるこゝ身こゝ
こゝゆれば心こゝあこゝのこゝ行こゝこゝぶまれいこゝぶまるべ
こゝける

やどりまいこゝうりめる秋こゝれど学ぶまて
ゝあこゝ身れどこゝうめこゝしこゝくこゝうこゝこゝうこゝばこゝ
しこゝを表こゝもこゝばこゝれて
星のみも世こゝるべこゝまこゝうこゝへのこゝからう
こゝわやの身こゝびこゝびこゝとこゝうこゝまこゝくこゝもこゝて

のみとぞうちんつるべ